音楽之友社―Kent Kennan “Counterpoint 4th Edition” 日本語訳「バッハの作品と学ぶ対位法」出版に寄せて

小櫻　秀樹

ケント・ウィーラー・ケナン（Kent Wheeler Kennan 1913–2003）はアメリカの作曲家、教育者。ミシガン大学でオルガンとピアノを学び、イーストマン音楽院で作曲と音楽理論の学位を取得した。23歳の時にローマ賞を受賞しローマのアメリカン・アカデミーを含めヨーロッパで3年研鑽を積んだ。

ケナンは、そのキャリアの大半をテキサス大学オースティン校の教授として過ごし、ケント州立大学でも短期間教壇に立った。作曲家としても数々の作品、オーケストラ、室内アンサンブル、独奏楽器のための作品のほか、歌曲、合唱曲など多岐に渡るが、1956年以降は目立った大作はほとんどなく、作曲活動から大きく遠ざかり、時折小品を書くだけであったようだが、残りの人生の半分以上を教育や執筆活動に専念した。

2020年より私は大学の授業で対位法クラスを担当することになり、特に器楽専攻の学生にも有意義な対位法の教科書を探す必要性が生じた。

東京藝術大学を始め、日本の多くの音楽大学では、私の知る限り、近現代フランスの作曲家･理論家によって書かれたもの、もしくはフランスで学んだ日本人作曲･理論家によって書かれた『対位法』の教科書が主流となっているようである。対位法は基本的規則や禁則が多く、なおかつ教科書は難しい文体で書かれていることも多く、和声学をある程度習得した学習者であっても、理解することは容易ではなく、学習を継続させるモチベーションを簡単に喪失することが想像できた。実際に教鞭を執るにあたることになり、それらを少しでも解消する方向で教えることができないかということを念頭に置いて、国内で容易に入手できそうな教科書を中心に探し始めた。

私自身が大学浪人中や、藝大学部時代に使用した教材を含め、国内外で出版されている数々の対位法の教科書を本務校の大学図書館やインターネットなどで調べていくうちに、ケント・ケナンが著したCounterpoint（対位法）（4th Edition）に出逢った。原書は英語で書かれており、未だ日本語訳がなく、日本ではその存在すらほぼ皆無であることなどを知るに至った。文章などを飛ばし飛ばしに大まかに読むレベルですらケナンの対位法がいかに面白く優れており、非常に分かりやすく、魅力的な内容に富んでおり、また理解する上

で必要な譜例がとにかく豊富で、日本の音楽大学でも日本語訳版さえあれば、教材とし広く普及する可能性が十分にあるのではないかという印象を持つに至った。

第1章から19章まで、各章ごと何を勉強するのかが明確に提示されており、よくありがちな課題をこなし、規則等を頭にたたき込むための実習を中心にした実践タイプの教科書とは対照的であり、技術向上を目的とした 内容に重点を置いて書かれていない。ヨハン・ゼバスティアン・バッハ（Johann Sebastian Bach 1685–1750）を中心とした後期バロック・古典 派の作曲家による多くの作品が実例として記載されており、対位法にはどういう手法があるか、既存曲のどこに用いられているか、分析を通して学ぶことができるので、作曲のみならず、演奏系の学生たちにとっては対位法を概観することができる大変有効な教科書であると自信を持って勧めることができる。

この日本語訳「バッハの作品と学ぶ対位法」の使い方として、ケナンは学生たちには、本書で勉強する音楽形式の例をできるだけ多く鑑賞させるのが望ましいと書いている。ピアノやチェンバロ、オルガン専攻の学生であれば、バロック音楽（特にJ.S. バッハの2声、3声のインヴェンションや平均律クラヴィーア曲集）に精通している可能性が高いが、他専攻の学生の場合、そうではないことが十分に考えられる。学生にとってなじみのない様式を勉強させることは、論理的ではなく、また効果が得にくいであろう。実例として掲載されている作品は必ず演奏して、スコアを配布などすることによって、より深く、学習内容の全体像を把握しながら勉強できると確信する。